

令和7年度 函館あおい認定こども園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	8.5	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	8.7	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	8.1	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	8.3	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	9.0	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	8.3	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	8.2	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	8.6	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかななどを常に観察している。
	8.4	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	8.2	個々の幼児の発達の様子や課題について見通しをもって理解できる。
	8.8	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	9.4	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	8.3	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.7	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	8.8	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	8.4	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.7	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.8	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.9	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.6	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.6	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡アプリなどを使って伝え合っている。
	8.5	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	8.1	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に関心をもちよく聞く。
研修と研究	7.8	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	7.9	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	7.9	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

～学級経営反省点～

【1号認定児・2号認定児】

- 昨年度が年長児担当、今年度が満3歳児担当という事で、年度始めは発達面の援助等に自分自身がギャップを感じて過ごす事が多かった。初めての集団生活や経験をする子どもたちが、登園する事を楽しみにし、遊びや活動に自らやってみよう！と思う促しが、少し難しかったと感じた。（10年目：保育教諭）
- 2歳児の子どもたちとの交流を積極的にもつことが出来た。集団遊びを一緒に行き、互いの保育室を行き来してきた事で、始めは泣いていた子も、今では泣かずに自ら輪に入っていき姿を見て、日々の丁寧な環境作りと、繰り返し様々な事を経験する大切さを感じた。（10年目：保育教諭）
- 成長と共に、友達とのかかわりも深まり、気持ちの折り合いの付け方や言葉で伝える難しさを感じた。自分の気持ちを大切にしながら、友達の思いも知り、どうすると一人ひとりが納得することが出来、分かり合えるかを一緒に考えた。その中で、子どもたちなりの解決策や提案をしていく姿があり、年長児だからこそ見られる成長を感じた。（10年目：保育教諭）
- 一つひとつの行事を通して、クラス内の団結力が高まり、クラスを超えて隣のクラスや、違う学年のかかわりが広がられたと思っている。これからも積極的にすすめていきたいと思っている。（5年目：保育教諭）
- 園で過ごす時間も長いので、メリハリをつけながら生活を行う事や、楽しさの中から学べるよう促す事に気を配った。時には厳しく伝えなければならない場面もあったが、その後の子どもたちの気持ちの受け止めや切り替えが出来るようになるための援助として、言葉かけや配慮をすることが多かった。（7年目：保育教諭）
- 遊びや園生活のルールについては、幼い組であり、集団生活で初めて経験する事も多く、繰り返し伝えてきたが、遊びに夢中になると守る事ができない姿もあり、ルールを守る事の大切さを具体的に伝え、意識できるような言葉かけや援助が必要であった。（14年目：保育教諭）
- 忘れ物（水筒・通園バックなど）が多かったため、子どもたちときちんと確認し合い準備をしていきたい。また、環境作りを工夫することも必要だと感じた。（1年目：保育教諭）
- 楽しくなりすぎてしまい、気持ちの切り替えが出来なくなる姿も見られていたため、言葉かけの工夫が足りなかったと反省している。良い形で意欲を持ちながらも、場に合った行動が出来るようすすめたい。（5年目：保育教諭）

【3号認定児】

- 0歳児で月齢が低く、食事・歩行等の成長もほぼ同じ時期にクラスに子どもたちが入園してきたため、環境の設定・週案を考えてすすめる事が行いやすかった。（7年目：保育教諭）
- 今年度より、食材チェック表を見直した。保育者・給食職員が一人ひとりの給食の把握がしやすく、保護者へも伝えやすかった。（7年目：保育教諭）
- 一人ひとりの動きが活発になり、職員が必ず近くにつき、目を離さないように保育をしていたが、ケガに気が付かない事があった。頻繁に視診を行いながら、ケガのないように十分に気を付けていきたい。（7年目：保育教諭）
- 保護者とは、毎日顔を合わせる事が出来るため、子どもたちの成長した面や出来た事の報告を細やかに行う事が出来た。保護者の方からも家での様子を聞く機会も多く、気軽に話して下さる様子もだんだん多くなった。（6年目：保育教諭）
- 2歳児は月齢差や個人差が発達面でも大きく、個々の成長に寄り添った援助を心がけて過ごせたとする。クラスにはサポート保育教諭・保育支援者・担任…とたくさんの人数で子どもたちを見ている。一人ひとりの考えや、保育感を共有する大切さを感じた。（15年目：保育教諭）
- 基本的な生活習慣では、食事等は意欲的に食べられる子が多くいた。正しく食事をする際に、食具等の使い方も伝えていたが、個々の発達に合わせて伝える事がとても難しく感じた。（8年目：保育教諭）
- 言葉の発達では、比較的ゆっくり成長するクラスだと感じていた。保育者がゆっくりと正しい言葉で個々に話をするようにした。絵本に興味を示す子もいたので、たくさんの絵本に触れ合わせる機会を作り、すすめる事ができた。（8年目：保育教諭）
- 一人ひとりの欲求を満たしてあげる事が難しかった。気持ちの切り替えをする事や、友達とのかかわりをもう少し深めてあげられるようにしていきたいかった。（8年目：保育教諭）
- 自我が芽生えてきた時には、子どもの気持ちに寄り添い、優しく受け止めるよう努めたが、食事の援助等では「野菜も食べてほしいな…」等の自分自身の思いや願いが、強くなってしまいう場面もあったと反省する。（15年目：保育教諭）
- 友達への興味が広がり、一緒に遊ぼうとする姿が増えてきているが、思いを上手く言葉で伝えられずに玩具の取り合いで手が出てしまう場面が多く見られていた。1歳児という年齢の育ちを考えると、保育者が間に入りながら気持ちを言葉で伝える事を繰り返し伝えて、経験を重ねていくことが大事だと感じた。（27年目：保育教諭）

【今後取り組みたい課題】

- どの学年、どの年齢でも登園する事を楽しみにし、子どもだけでなく保護者もこども園を通う事を楽しみにし、登園やかかわりに積極的になれるような保育や言葉がけをすすめていきたい。（10年目：保育教諭）
- 子どもたちの遊びの中で、お店屋さんごっこでは看板作りや売り子さんなど、役割分担しながら楽しむ姿があった。来年度は物のやり取りだけではなく、なりきった遊び（美容室やマッサージ屋さん）等も展開してみたい。（10年目：保育教諭）
- 個別の支援が必要な子がいる中で、クラス全体の言葉がけの工夫や一人ひとりに合わせた援助を心がけていきたい。その子に必要な支援の学びや促しも外部の専門の先生と相談しながら、すすめていきたいと思う。（9年目：保育教諭）
- 園庭遊び・水遊び等の屋外での遊びを充実させ、子どもたちの体力作りや免疫力を上げるための活動や取り組みを行ってきたい。（7年目：保育教諭）
- 子どもたちがイメージを膨らませる事ができるような、環境作りを心掛けたい。（5年目：保育教諭）
- 子どもたちとの信頼関係を大切にし、主体性を育む環境構成や生活習慣の丁寧な支援、子どもの気持ちに寄り添いながら保育をすすめていきたい。（1年目：保育教諭）
- 各クラスの状況・個々に合った保育・援助方法を、かかわる職員全員が理解する。その上で誰でも同じような対応し、援助できるように保育をすすめていく。（7年目：保育教諭）
- 一人ひとりが心から安心して見守られ、愛されながら、「何でもやってみよう！」と意欲的に生活や遊びをしていけるように援助していきたいと思う。（8年目：保育教諭）
- 自分のやりたい遊びを選択できるような環境設定の工夫を行い、すすめていきたいと思う。（15年目：保育教諭）

【学校関係者からの評価】

- いつも子どもたちとかかわってくださっている時に、先生方からの愛情を感じています。先生方のお陰で、こども園が大好きになりました。保護者としても、とても感謝しております。引き続き、ご指導よろしく願いいたします。
- 一部の保護者の方より、遠足の予備日がなく、中止になってしまったことが、残念だったという声を耳にしました。（予定していた場所の近くに、クマが出没したため）保護者も楽しみにしている行事の一つだったのだと、聞いていて感じました。
- わが子が年少児という事もあるのか、時々行き渋りをする事がありましたが、登園し一日過ごして帰ってくると、楽しかったという声を聞くので、基本満足しています。
- 「クマの出没で遠足が中止」・「感染症が流行してのクラスクッキング中止」という事で、残念でした。全ての行事が開催できる事を願います。
- 日々、園児達へ愛をもって保育してくださっている事がとても伝わります。
- 小さなケガや体調の変化も感じ取り、保護者へ丁寧に伝えてくださるので、安心して通園する事が出来ています。
- コドモンの連絡帳では、その日どのような遊びをして子どもたちがどのような反応をしたのかまで記載してくださっているので、その情報からの家での会話につなげたり、休日の遊びの内容につなげられたりできたのが、とても助かりました。
- 連絡帳ですが、手書きの時代も経験しておりますが、コドモンでの配信の方が、保護者として嬉しかったです。